



上野彦馬《長崎伊佐名》c.1860、鶏卵紙

1838年、長崎に生まれ、海軍医学伝習所医官ボンベから舎密学を学んだ上野彦馬は、フランス人写真家ロシェのもとで湿板写真術を身につけ、1862年長崎に上野撮影局を開設。
また同年、科学教科書『舎密局必携』を著し、写真師として、また化学者として重要な役割を果たす。
長崎、稲佐の高台より撮影されたこのパノラマ写真には、市街地を過景に、
恵比須神社、長崎湾に浮かぶ艦隊、初の近代的造船所である長崎製鉄所などが写っている。

master works, master photographers

写真表現の軌跡

第1部 日本の写真：渡来から1950年代まで——東京都写真美術館コレクションより

1999年6月1日(火)～8月15日(日)

〔学芸員によるフロアレクチャー〕 毎月＝第1、第3金曜日 午後2時～

〔主催・会場〕 東京都写真美術館 3階常設展示室

〔開館時間〕 午前10時から午後6時まで(木・金のみ午後8時まで) 入館は閉館の30分前まで

〔休館日〕 毎週月曜日(休館日が祝日または振替休日の場合はその翌日)

〔観覧料〕 常設展＝一般500(400)円/小・中・高校生250(200)円

※都内の小・中学生、第2・第4土曜日に観覧する高校生(要証明)は、常設展のみ無料となります。〔1日420名以上の団体料金です。〕

企画展との共通観覧料＝一般1000(800)円/学生800円/小・中・高校生500(400)円

※小学生未満、65歳以上の方、および障害のある方とその介護の方1名は無料となります。学生の方は学生証をご提示ください。

〔交通機関〕 JR恵比寿駅より徒歩7分(恵比寿ガーデンプレイス内) お車でのご来館はご遠慮ください。

〔インターネットアドレス・NTTハローダイヤル〕 <http://www.tokyo-photo-museum.or.jp> 03-3272-8600

編集＝東京都写真美術館 発行＝財団法人 東京都歴史文化財団 東京都写真美術館 ©1999

デザイン＝榊島知彦 製作＝株式会社 求龍堂



東京都写真美術館

〒153-0062 東京都目黒区三田1-13-3 Tel.03-3280-0031
1-13-3 Mita, Meguro-ku, Tokyo 153-0062



1 守田来蔵《村松遠江守武豊像》

1866、アンプロタイプ、10.2×8.0cm

1830年、豊前中津(現、大分県)に生まれた守田来蔵は、1862年上野彦馬の門人となり写真術を修得する。

65年、大阪高麗橋に写真館を開業し、内田九一と共に大阪における写真の開祖と称されている。この作品が収められた桐箱には「崎陽上野彦馬門人 守田来蔵謹写」との朱印が押されている。

4 小川一真《月光菩薩像 東大寺》

c.1888、セラチン・シルバー・プリント、27.0×20.7cm

1860年、武州(現、埼玉県)生まれ。熊谷の吉原秀雄写真場で湿板写真術を習得し、77年、群馬県富岡で撮影業を開始するが、写真術研究のため渡米。写真のみならず印刷術、乾板製造などを学び帰国する。88年には臨時全国宝物取調局に委嘱され、全国各地の重要社寺宝物を詳細に撮影して歩くなど、我が国の文化財の記録、調査に大きく寄与した。背景をぼかし、真横から撮影したこの作品からは、確かな技術と高い芸術性が感じられる。

5 中島待乳 題不詳

1880年代、鶏卵紙、20.9×26.2cm

1850年、下総銚子(現、千葉県)に生まれた中島待乳(本名、精一)は、明治初頭に横山松三郎について写真術を学び、75年東京浅草、吾妻橋に写真館を開業。号の待乳は、浅草にある待乳山聖天にちなんで横山がつけたという。第1回から第3回までの内国勲業博覧会で連続して受賞したことから、その技術内容の確かさは定評があった。この集合写真においても、まさにそのことが言えよう。



2 武林盛一《札幌駅》

1870年代、鶏卵紙、21.0×27.2cm

1842年、弘前に生まれた武林盛一は、文久年間に函館に移り外国船舶の検問係として働き、写真に興味をいだく。72年函館で開業し、73年に札幌に移転。同時に開拓使に雇われ、北海道開拓の記録撮影に携わる。この作品は札幌駅に停車中の蒸気機関車比羅夫号と客車等を写したものであり、職員と思われる人間も写っている。端正な画面の中に置かれるドキュメント精神は、北海道開拓写真と称される写真群に共通するものである。



3 撮影者不詳《京都、金閣寺「鈴木真一(二代)アルバムより」》

1870-80年代、鶏卵紙に着色、19.7×25.6cm

初代鈴木真一は1835年、伊豆に生まれる。下岡蓮杖に写真を学び、73年、横浜、弁天橋前に写真館を開業(翌年、横浜真砂町に移転)。写真師として成功をおさめる。二代鈴木真一は、蓮杖門下の岡本圭三が娘婿となり二代目を襲名。鈴木は写真撮影のみならず名所写真、土産用アルバムなどの制作、販売も手掛けた。この写真アルバムは、日本の名所風景や社寺を撮影した写真に、絵具で美麗な着色がなされ、装飾が施された豪華なものである。

